

岩波ホール発

白石加代子

KAYOKO SHIRAIISHI

百物語  
シリーズ

HYAKU  
MONOGATARI  
SERIES

第三十二夜

第九十九話ファイナル公演

構成・演出

鴨下信一

出演

白石加代子

第九十八話

三島由紀夫「橋づくし」

第九十九話

泉鏡花「天守物語」

最終公演は「百物語」の総集編です。

(鴨下信一)

2014年8月23日(土) 18:00開場/18:30開演

所沢市民文化センター ミューズ マーキーホール

S席 4,500円 A席 4,000円 ※未就学児の入場はご遠慮ください。

チケット予約・問合せ ミューズチケットカウンター 04-2998-7777

2014  
6月1日(日)  
発売開始

第九十八話  
三島由紀夫「橋づくし」

陰暦八月十五日(旧暦)の夜、新橋の料亭・米井の娘、満佐子は、芸妓の小弓、かな子と一緒に願掛けに出かける。満佐子の願いは「俳優のRと一緒にいたい」、かな子は「好い旦那が欲しい」、四十二歳の芸妓の小弓は「お金が欲しい」のである。三人の願いは簡明で、正直に顔に出ていて、実に人間らしい願望だから、月下の道を歩く三人を見れば、月はいやでもそれを見抜いて、叶えてやろうという気になるにちがいない。三人と、満佐子の家の新米女中のみながお供に加わる。願掛けのルールは、①七つの橋を渡るときに同じ道を二度通ってはいけない ②今夜の願い事はお互いに言ってはならない ③一度知り合いから話しかけられたら願はずでに破られている ④橋を渡る前と渡ったあと、それぞれ四回お祈りをするのである。願掛けの結果は、四人のうちみなという女中だけがルール通りに七つの橋を渡りきる。このみなの願い事だけ他の三人にも、ましてや読者にも伝えられることはありません。

三島由紀夫の「橋づくし」は、築地界隈を舞台に、陰暦八月十五日の満月の夜に七つの橋を渡って願掛けをする女たちの悲喜こもごもを巧妙に描いた作品。優れた技巧と構成で、多くの文芸評論家や作家から、短編の傑作として高い評価を受けています。美しい日本語の旋律で紡ぎだされる三島由紀夫の独特の世界。「百物語」には満を持しての初登場となります。花柳界の三人の女とみなという普通の女という対照的な女性達を白石はどう演じ分けるか、興味は募ります。

笑いあり、涙あり、  
ゾツとして、ドキドキして、  
ワクワクする  
たった一人のエンターテイメント

白石加代子「百物語」シリーズは、1992年6月岩波ホールで始まり、2014年6月に九十八話、九十九話のファイナル公演を迎えます。  
「百物語」は100本の蠟燭を灯し、一人ずつ、自分の身起こった恐い話をし、話が一つおわることに、蠟燭の灯芯を一本ずつ消していく。そして百の話が話終わり、すべての灯芯が消されると、闇の中から真の恐ろしい魔物が現れる。だから百本目の話というのは決して、語ってはいけないという言い伝えだそうです。というわけで、この「百物語」シリーズも九十九話を持って打ち切りとなります。まさに二十二年の年月を経て、このシリーズはやっつとゴールに辿り着くというわけですね。  
このシリーズは、ニューヨークでも三度にわたり上演され、「人物の変化とともに、語り方のイントネーションも、表情も、姿形までもが変化する。千変万化の白石加代子にとって視覚上の限界はない。迷信深い母親も、権威的な父親も、いともたやすく、よどみなく演じ分ける。年齢すら問題ではない。迷信深い母親、赤ん坊でも死にかけた男でも、何の苦もなく生き生きと描き出すのだ」と評され、ワンウーマンショー、たった一人のエンターテイメントと絶賛されました。

観客に愛され、その物語を書いた作家に愛され、二十二年の年月を重ね、いよいよその名物シリーズのゴールへ。

第九十九話  
泉鏡花「天守物語」

「言葉の中にこそ、至純の心があり、至純の愛がある」、それこそが演劇ではないだろうか。そういう意味ではこの「天守物語」は演劇の中の演劇である。

時、不詳。ただし封建時代—晩秋。日没より深更にいたる。所、播州姫路。白鷺城の天守、第五重。登場人物、天守夫人、富姫。侍女五人。桔梗、女郎花、萩、葛、撫子。各々名にそぐへる姿、鼓の緒の欄干に、あるいは立ち、あるいは坐て、手に手に五色の絹糸を巻きたる糸俵に、金色銀色の細き棹を通し、糸を松杉の高き梢を潜らして、釣の姿す。

このように第九十九話目は、優雅にゆるやかに幕を開け、逃げた鷹を追い求めて、天守にやってきた図書之助と名乗る若き武者の登場と共に急展開を始めます。禁断の場所に踏み込んだ若者の命をとるべき姫が、その若者に恋をした。禁断の愛は、命をかけた至純の恋へと昇華していく。「百物語」の演出家鴨下信一は、九十話を終わるころから、最後の話を何にするか考え始めたとき、次第にこの「天守物語」に焦点を定めはじめました。「見えるものを取り除いたとき、それまで見えなかったものが見えてくる。心の目で見える世界にこそ、真実がある」とシェイクスピアはハムレットに語らせています。「百物語」はまさに、心の世界で繰り広げられるスペクタクルです。白石加代子によって語られる言葉と共に、物語の現場へと観客は連れ去られる。それは心の風景の現場です。その心の風景の中では、さまざま不思議で怪奇な出来事が繰り広げられているのです。そして今回の「天守物語」は、物語の風格、深さ、美しさ、激しさ、すべての面において、「百物語」の最後を飾るにふさわしいと作品といえるでしょう。

岩波ホール 発

白石加代子「百物語」シリーズ  
第三十二夜 第九十九話ファイナル公演

構成・演出：鴨下信一 出演：白石加代子  
照明：阿部康子 音響：清水麻理子 衣装：江崎洋子/池田洋子 結髪：笹部純 演出助手：平井由紀 舞台監督：伊藤 満/木岡正  
写真：田中亜紀 宣伝美術：いちのへ宏彰 協力：京屋かつら 広報：高仲典子 制作：高比良理恵 企画：笹部純司  
製作：メジャーリーグ 後援：岩波ホール 主催：公益財団法人所沢市文化振興事業団

チケットのお求めは ミューズチケットカウンター  
TEL:04-2998-7777

チケット発売/メンバーズ 5月25日[日] 一般 6月1日[日]  
○チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp>  
○ローソンチケット 0570-000-407 <http://l-tike.com>

\*未就学児の入場はご遠慮ください。  
\*駐車場は大変混雑しますので、公共の交通機関をご利用ください。

お問い合わせ  
所沢市民文化センター ミューズ  
〒359-0042 所沢市並木 1-9-1 TEL:04-2998-6500  
<http://www.muse-tokorozawa.or.jp>

西武新宿線・航空公園駅東口より徒歩10分/バス約3分  
西武新宿線・航空公園駅まで  
■池袋駅より30分(所沢駅乗り換え)  
■西武新宿駅より40分  
■JR国分寺駅より20分(東村山駅乗り換え)  
■本川越駅より20分

